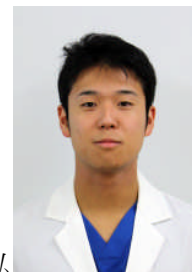


和歌山病院での実習を終えて



山口 敦弘

和歌山病院に一泊二日で実習に行き、様々な勉強をさせていただきました。

まず結核の予防方法のセミナーや隔離病棟の見学をしました。4年の時に勉強した内容の復習でしたが、忘れていることが多く非常に勉強になりました。また閉鎖病棟ではどのように陰圧室を作っているのか、どのような空気の流れを作っているのかを知ることができ、結核の感染を防ぐための対策を知ることができました。

南方先生のレントゲンの読影のセミナーでは今まで考えたことの無かったことを考えさせられるきっかけとなりました。まず、レントゲンは影絵と似ているというわかりやすく、とっつきやすい話題から始まり、影絵とレントゲンの違い、またレントゲンの線がなぜ出来るのかということをお教えいただきました。今までレントゲンの線はそこに物があるから写っているとしか考えていなかったのですが、南方先生に教えていただき、線の出来る理由を知り、レントゲンの読影の考え方を変えないといけないと痛感させられました。また、シルエットサインについても詳しく教えてくださり、今までは接している、接していないだけしか考えていませんでしたが、それだけでは足りないということをお痛感させられました。和歌山病院に行くのとブロンコ体操を教えてくださいということをお聞いていたのですが、内容は聞いておらず肺の区分覚えるのに便利なのかな、という程度にでしか考えていませんでしたが、先生に教えていただき、またそれを使ってレントゲン上で異常があるのがどこの区分なのかということをお考えされると分かり、もっと前から聞いておけばよかったと思いました。

また呼吸器の体験をさせてもらったのですが、強制的に呼吸を行わされるのがどれだけ苦痛でしんどいことか身をもって分かることができました。

また先生と食事会をさせていただき、いろいろな話を聞くことができ、和歌山県民でも知らない和歌山ことを知ることができました。

一泊二日では足りないくらいに充実した二日間を送ることができました。南方先生をはじめ実習に関わってくださった先生方には感謝しています。二日間ありがとうございました。